

大阪市立  
西淀川  
特別支援学校

タイトル(テーマ)  
「カメラでつくろう、記念品マグカップ! & 全校集会に向けて」

西淀川 No 3 号  
平成  
27 年 3 月 31 日

対象の児童生徒  
中学 部 3 年

困り感  
重複障がいのある生徒が多いクラス集団での発表活動で、子どもたちが主体的に関わるにはどうしたらいいだろうか?






取り組みの内容・授業の様子等




【使用アプリ、機器等】:「カメラ」、「keynote」、iPadタッチャー、ビッグスイッチ、プロジェクター  
パソコン、wifiルーター

【内容・授業の様子】:「カメラ」のタップする、シャッタースイッチに接続機器のiPadタッチャーをつけ、ビッグスイッチを接続することでシャッターを押しやすくした。プロジェクターで映し出して振り返り、どの写真にするか決めた。ピンチ・フリックなどiPadの操作が上手な子もいれば、過緊張で指さしの難しい子もいる。友だちの写真は子どもたちにとって興味の高い題材であり、それを自分で撮ってみるという体験もモチベーションの上がるものだった。またその写真などをプレゼンテーションアプリ「keynote」にも貼り付け、再びビッグスイッチを接続することで全校集会での生徒自らによる発表へとつなげていった。

〈クラスでカメラ活動〉



〈keynoteを練習中〉



「ポチッ」

「動いた〜!」

成果と今後の課題

【成果】プロジェクターとパソコン、それに「リフレクター」というアプリで、無線で撮っているときのiPad上の画像を大きく映し出しながら撮影活動をした。待っている生徒にも事前指導になり、有線をつなぐよりもネットワークも軽くなりました。重複の生徒でもスイッチを押すことで写真が撮れ、すぐに大きくして振り返ることで課題への参加感や主体性が発揮できた。選択した写真を並べ、卒業記念品のマグカップのデザインに利用した。

【課題】撮影時に教師自身がスイッチを持って行って押させないように、iPadとスイッチを固定すること。無線LAN環境の整備。写真の配列などデザインのところも簡単にできる編集アプリがないだろうか。

